

教えてください、あななのことを。⑤

東京都新宿区 栗山佑子さん（星の環会 代表者）

Q 出身地を教えてください。

A 父の転勤先だった東京は青山の産院で生まれましたが、幼少からは父の会社の社宅がある兵庫県尼崎市で育ちました。一族が大阪の船場在住で、たくさんの叔父叔母と親しく行き来していたので、大人になって東京にきてから出身地を聞かれたときは、自然に大阪出身といっていました、「尼崎やんかー」と言われるようになりました。

Q ごみ問題に関心を持つようになったのは、いつ頃で、どんないきさつからですか？

A 弊社は設立して35年ほどになりますが、当時は日本が高度成長期にあって、環境汚染がとりざたされていました。学校の子どもたちに環境問題を教えるための、やさしいビジュアルな本を発行することになりました。次々とすばらしい著者に恵まれ、主なものでは「造形あそび（全5巻）」「みんなと考える人間と地球の健康（全6巻）」など大がかりなセットものを刊行しました。学校を巡回して販売するグループに入れていただき、これらの本は当時、類書がなくて、小・中・高等学校と公共図書館に高く評価されてたくさん売れました。

そういう著者とのつながりで環境問題に尽力されている方々との出会いがあり、その中でごみかんの江川さんとも出会いました。

意気投合して会話がはずむうちに、2000年のドイツの環境博覧会に参加することになり、ごみかんの元理事の吉崎さん、江川さん、私と他2人合計5人で10日間ほどの旅行に出かけることになりました。今はごみかんのドイツ特派員となっている、当時はハノーファー大学の学生さんだった田口理穂さんに通訳と案内をお願いしてドイツの道中を楽しみながら、環境博とドイツのNPO関連の視察、交流をしました。

そのあとに弊社で刊行した「ごみのへらし方 ドイツに学ぶ」（ごみ・環境ビジョン21編）には、ドイツのエッセンスがたっぷり詰まっています。

Q 「ごみ・環境ビジョン21」に入会して下さったきっかけを教えてください。

A ドイツ旅行中、吉崎さん、江川さんの純粋で透明なごみ問題への情熱に触れ、東京でごみかんの編集担当の井上さんが加わり親しくさせていただき、セミナーに参加したりして、みなさんの人間的魅力を感じているうちに、気がいたら入会していました。こころのこもった「ごみっと・SUN」はとても貴重な機関紙で毎回楽しみにしています。

Q ごみ問題に関わること以外に、趣味や生きがいは何ですか？

A 仲間と小旅行をしたり、おいしいものをいただきながらお酒を飲むこと。子どもや若者の健康を助けるようなお手伝いができる運動をすること。刊行した本が売れることです。

Q ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことをお聞かせください。

A 「会員数が減っている」と前号のごみっと・SUNで知って、心配しています。ごみ問題は終わりが無いと思いますので、文部科学省に働きかけて、小・中・高等学校の授業に取り入れ、指導者として、ごみかんの優秀講師の出番を作れないでしょうか。



上野の森で本の販売